

低炭素社会戦略センターシンポジウム

「低炭素技術をどう社会につなげてゆくか」

日時 平成 26 年 12 月 15 日（月）13:30～17:00

場所 伊藤謝恩ホール（東京大学伊藤国際学術研究センターB2 階）

来賓挨拶

原 克彦（文部科学省環境エネルギー課長）

我が国は、東日本大震災と原発事故によってエネルギー基盤の脆弱性が露呈されてきました。その後、本年 4 月、国の基本的なエネルギー政策を示す「エネルギー基本計画」が改訂され、閣議決定されました。計画においては、徹底した省エネルギー社会の実現や、スマートで柔軟な消費活動の実現について触れられており、新たなエネルギー需給構造の構築に向けて取り組むこととされています。

国際的にも、本年 10 月末、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 40 回総会がデンマーク・コペンハーゲンにおいて開催され、IPCC 第 5 次最終評価報告書が採択されました。最終報告書には、人の排出する温室効果ガスが、地球温暖化の主因である可能性が極めて高いことや、将来の気候変動やリスクが示されています。小宮山センター長のお話にもありましたが、会期を延長して昨日までペルーで開催されていた気候変動枠組条約第 20 回締約国会議（COP20）では、地球温暖化対策の新しい国際枠組みについて議論が行われ、我が国には温室効果ガス削減目標の早期提出が期待されているところです。

以上のように、エネルギーの安定確保や地球温暖化防止への対応は緊急の課題であり、我が国においても、低炭素社会づくりを今後どのように進めていくかがまさに今問われています。

LCS は低炭素社会づくりに向けた社会シナリオ研究を本格的に実施するという新しい構想の下に、小宮山センター長の強力なイニシアチブによって 2009 年に発足しました。これまで、低炭素技術の技術的・経済的評価に取り組み、その成果をシナリオや、政策提案書として取りまとめ、公表してきていただいたところです。また、現在、発足以降 5 年間の LCS の取り組みを振り返りながら、社会・経済状況の変化に対応しつつ、これまで積み重ねてきた研究成果の社会実装に向け、今後 LCS にどのような体制を構築し、課題に取り組むべきか、外部の委員を含めて議論していただいているところです。

本日のシンポジウムにおいては、今後の LCS の活動の柱となる、低炭素技術をどのように社会に実装していくかがテーマとなっています。先ほど小宮山センター長からもお話いただきましたように、トランジションをどう作っていくのかという点について、本日のシンポジウムで皆様からの忌憚のない御意見や活発な御議論をいただくことを期待し、私からの挨拶とさせていただきます。

以上